

NPOテクノ未来塾 東京フォーラム(第 163 回)
2016 年 7 月 2 日(土) 於 中央区環境情報センター 研修室

**「豊かで明るい“ものづくりの未来”を考えよう
～自ら明るい未来を構想できなければ明るい未来はやってこない。
夢はみるものではなく叶えるもの～」**

**阿部 惇氏 立命館大学総合研究機構 上席研究員
ニチコン株式会社 取締役**

**「水中探査機『江戸っ子 1 号』から『葛飾っ子 1 号』へ、
水深 1000m への挑戦とロマン」
杉野 行雄氏 株式会社杉野ゴム化学工業所 代表取締役社長**

参加者の感想

(テクノ未来塾メーリングリストへの自由発信)

<感想1.>

初めてフォーラムに参加させていただき貴重なお話を聴くことができました。

阿部理事長のご講演では、まず、「成功の復讐」という言葉が心に残りました。成功を続けている間は(企業は)他のことに目が行きにくくなることがあるので常に新しいことの創出にチャレンジしていくことが大事であると感じました。チームを作るときでも違う考え方をする者を集めたほうがよいとのことで、チームのメンバー編成のときも考えさせられます。

杉野社長のご講演では社長の熱意が伝わってきました。あきらめないでたゆまぬ努力が必要とのこと。その時々で人間には思い込みや先入観があるので気を付けないといけないということでした。突拍子もない意見を出したり初めは周りから白い目で見られたりしてもそれを否定せずに尊重することが大事であると感じます。ありがとうございました。

<感想2.>

第一部 阿部先生

ここで感じたのは、これまでのエンジニア教育は何か間違っているのではないか?既存の科学技術を学び、良いものを作れば売れるという考え方で終わり、その先がありません。その先の抜けている部分が、起業に発展させる所の考え方です。「エンジニアを語ろう」の活動にぜひ加えたい内容です。

第二部 杉野先生

圧倒的なエネルギーというか情熱を感じました。本業とは関係の無いところですが何かをやろうという強い意気込みが周囲を動かし、夢を叶える。そんな実体験を感じ取らせて頂きました。

第一部+第二部で夢と希望のある未来を作る素地ができたような気がします。

「エンジニアを語ろう」の活動にフィードバックさせるだけでなく、懇親会の場でも出ましたが、バーチャルでも良いから起業することを目標にした新しいサークル活動に繋がっていきます。

<感想3.>

講演Ⅰと講演Ⅱどちらがどうであったというより、一つの流れとして考えることが出来ました。

阿部先生、杉野社長のお話から、発想を柔軟にさせることの阻害要因として「技術者は思い込みが強く、解を知りたがる」ことがネックとのお話でした。しかし、先生も社長も技術者である。先生も社長も自身も思い込みが強いところは否定していない。（むしろ、普通の技術者より強い）

では、何が違うのかという際に、先生のMOT、社長の経営者の目線を考えた時、だから高位の経営的視点も取り入れた「柔軟な視点を持つ」という言葉で私の頭の中でまとめた気になりましたが、違和感がありました。

その後、阿部先生、出川先生から「シナリオプランニング」を読みなさいとのアドバイスを思い出し、その後ネットで検索しました。

<http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20130201/338840/>

リンクの最終回に「先を読む人になるには」とあり、そこには

1. 断定せず、視点に「幅」を持つ
2. 複数の事象の関係性を整理する
3. 「視点のエスカレーター」をつくる
4. 視点の「幅」と「高さ」をコントロールするラピッド・プロトタイパーになる

と、あります。

この内容で、やっと先生と社長のお話を理解することが出来ることができました。

が、お二人の講演を思い返したり、資料を見直すとネットで調べなくとも随所にちりばめられていました。（恥ずかしいことですが、私にはその場では目に映っても、聞いても、30%も理解できていなかった訳です。）

正しいのかどうかは別として、私が出した結論として、

- 今回のお話「(経営抜きにしても) 技術で今後も食べていきたい人が、どんな境遇でも生き残るためにも必要なことは？」
- 技術者は思い込みが強くてもいいが、以下に注意を払うこと。

A. 今まで (=今回、先生、社長がダメとご指摘された内容)

目の前の目標→最終目標 (ゴールまでプランがひとつしかない)

・ ・ 自分が身につけた知識、高名な方の知識 (本) でダメだと書かれていることからちょっと違うことを探すため、技術者としての思い込みを全力でぶつける。まわりも目の前の目標が明確なので、適材適所の専門家が多く知識抜けも無いし、一見、周りも協力的で実験も迅速かつ的確なアドバイス。ただし、目の前の目標が超えられないと全てがダメだと最終目標まで諦めてしまう。

B. (あるべき姿)

最終目標→目の前の目標 (ゴールまでのプランが複数ある)

・ ・ 最終目標のために目の前の目標が達成できなくても他に解を得ることを考えること前提とするため、他分野の専門家の意見を聞くが、知識の隙間が大きいことに気がつく力を身につける。

次に、その知識の隙間を埋めるためにこそ技術者としての思い込みをぶつけ、そこから最終目標を目指す。例えそこに解がない結論でも、最終目標はブレない。

ただし、その隙間に対し、誰も明確なことは言えないし、アイデアをぶつけても誰もついていけないし、協力したくても出来ない。(周りからは訳がわからないと言われ、自分も周りは非協力的と思いつく原因にもなる)。よって、周りの協力を得るためにはシナリオプランニングで共有化してわかりやすくしてあげる。

という考えに至りました。

このようなことは私一人が講演会に行き、ノートにメモを取るだけでは理解したつもりになっていただけで、結局今までの考えから脱却できなかつたと思います。

非常に身になる機会を与えていただきありがとうございました。

<感想3. へのコメント>

阿部 惇理事長より下記の所感をいただきました。ML 転載のご了解をいただきましたので、紹介させていただきます。

私の講義を聴講された塾生からのコメントにありましたが、

- ・あとで読みかえして見たら、その意義・意味がさらに良くわかった、 ということは、
- ・当人が深い問題意識を持った、からだと思います。

資料は、企業・大学での長年の実践を踏まえて作成したものなので、

- ・問題意識を持つほど、響くものがあると思っています。

先日、立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科のOB会がありまして、その当時の社会人学生が異口同音に話しかけてこられたことは、

- ・あの時に習った・聴いた言葉は、その後の活動において、大きな指針となった、ということでした。教師冥利につきる、ということでしょうか。
- ・この大学院を創設し、研究科長・教授として6年間教え、ともに学びました。現在は、京都にあるニチコン㈱（社員8千人程度のうち、すでに約300名がMOTの受講生）では、
- ・3年かかりましたが、MOTの受講生が中核になり、400億円程度の新事業を育成してくれました。我田引水ですが、MOTは実践的学問であることを実証してくれました。嬉しい限りです。

<感想4.>

阿部先生の講義は、企業においての実践をベースにした研究者としての「ものづくり」の視点から、杉野社長の講演では、町工場の社長の視点で、いかにプロジェクトを成功させるかをダイナミックな切り口で語って頂いた。

まず、私は、阿部先生の講義で「成功の復讐」という言葉が頭に残ったが、現在の日本のほとんどすべての事象が、成功の復讐のスパイラルに陥っているのではないかと、危惧しているのである。

こうした中で、日本の国の最も重大な懸案事項である急激な少子高齢化に対する対策はないに等しい状況である。最も安易な方策は、移民を受け入れるというものだが、現在のEU、そしてイギリスの状況を見れば、日本で実現することは難しいと思われる。その他に唯一具体的な解決策を提示したのは、私の知る限り、ソフトバンク孫会長のロボット三千万台フル稼働計画だけである。この計画に対し、「1980年代に日本の多くの製造企業で自動化を導入したがうまくいかなかった」と批判する人がいるが、ロボットの実用性自体が、当時と異なっており、可能性は多いにあると思う。

さて、私は団塊ジュニア世代、言い換えれば氷河期世代の人間である。このままの状況で時が過ぎれば、同じ世代の人間が定年を迎える頃、「お荷物世代」として、現役世代から白眼視されるのは自明のことである。現役世代の数倍の人口がいるお荷物世代のため、日本は完全に疲弊してしまうだろう。これまで、日本の様々な状況に翻弄され、それでもひたむきに日本経済を支えてきた自分たちの世代が、一転してお荷物扱いされるのは、本当に悲しいことである。このような未来が予想され、自分に何かできるのかを問うた時に、結論として出されたのが、「壮年になっても働いて稼ぐ」というものである。

これは、自分ひとりではなく、自分の世代前後の働ける人すべてが、そういう意識を持ち実践することによって、日本の急激な少子高齢化の影響を最小限に留めることができるのである。壮年になっても働いて稼ぐといっても、AIの進化やロボットの普及によって中途半端な頭脳労働や、肉体労働に、我々の居場所はない。それゆえに、自ら働き場所を作らなければならないのである。

行き着く所、壮年でのベンチャー起業ということになるのだが、弱小企業の社長で苦勞した父親を見てきた身としては、壮年になってから借金をして会社を経営するようなリス

クを負ってまでやるものではないと思っているのである。

それゆえに、私は「わらしベンチャー」と名づけた、時間をかけて、小さい成功からはじめて、コツコツ積み重ねて、少しずつ仕事を大きくするようなモデルが良いと考えるのである。つまり今から準備をはじめないと間に合わないのである。「なるようになるさ」というセリフは若者のものである。自分たちは、現在の状況を考え、未来を見据え、一歩ずつ踏み出さなくてはならないのである。

さて今回、講演して頂いた杉野社長の手法は、このような私の目標に対して大いに参考になりました。

杉野社長は、社会の耳目を集めるような大きなプロジェクトを仲間といっしょに成功させることにより、それをダウンサイズ化した事業を展開することによって、事業化のハードルを下げたのだと思います。その他にも、事業を行うにあたっての金言がいくつもあり、本当に参考になり勇気づけられました。

二次会、三次会でも話は尽きなく、同じ志を持つテクノ未来塾の仲間にぜひ聞いてもらいたい内容でした。

機会があったら、またいろいろと教えて頂きたいと思いました。

<感想4. へのコメント>

熱い想いを語ってもらいありがとう。

- ・塾生の中にも、これから新しい人生を切り開こう、と強く考えておられる方がいます。

幸いテクノ未来塾には、多様な経験・知識・見識を持った方がおられます。

- ・どこかで相互触発の場を設けてもいいのかもしれませんが。
- ・理事会等で意見を聞いてみたいと思っています。

阿部 惇

追伸 1

私の講演でのメッセージは、大企業・中小企業・ベンチャーに共通なポイントが沢山あります。

- ・たとえば、強いこだわり+夢+想いなどです。
- ・積極的に外部を活用する（含む、オープンイノベーション）
- ・周囲を巻きこむ、応援団をつくる

等々です。

追伸 2

AIについては以下のような考え方もありますのでご紹介します。

- ・人工知能で職業がなくなるというのではなく、新たな職業が生まれる、

- ・あるいは今まではその職業に就けなかった人が人工知能の助けを借りることによって、その職業に就けるようになる。
- ・職業選択の機会が増えていく可能性がある。

追伸3

私は、私の講演と杉野社長様の講演の位置づけを以下のように考えております。

- ・普遍的な横軸としての私の講義（MOTの研究者ではなく、MOTの実践者として話をしたつもりでございましたが・・・）
- ・具体的な実践例として杉野社長様の講演

従いまして、縦軸は業界業種によって無数にあります。

- ・どこに共鳴するかは人それぞれでしょう。

<感想4. へのコメントへの返信>

私の拙い感想に、丁寧な返信をありがとうございます。

私は、テクノ未来塾自体や塾生会員の皆さんが、この数年で随分変わったな...という印象を受けています。十数年前に入塾して、ほとんど何もしてこなかった不良塾生ですが、今が一番面白いと思っています。そして、私のような不良塾生に、この新しい未来塾に再び深く参加してほしいと願っています。正直言って、入塾当時は、何の為の組織かよく理解できていませんでしたが、今が、塾生会員と未来塾が最も輝ける時代だと思います。

「隗より始める」の言葉のように、今いるメンバーが、まず未来を切り開くチャレンジをはじめの事を願うばかりです。

東京フォーラムの感想については、いささか筆が滑り脱線してしまっただけで申し訳ありませんでした。

追伸2について

AIについては、そのような考え方もあるのですね。勉強になりました。

これから、ベンチャーで多くの人が、ひとり会社を立ち上げるとした時、AIが、電話番号、会計係を請け負ってくれるかもしれません。そうすると、AIはベンチャーを立ち上げるハードルを下げる役割を負うかもしれませんね。

追伸>>阿部先生の講義を聴いたことがない方へ

ぜひ、一度、機会がありましたら、フォーラム等に参加して、講義を聴いてみて下さい。何かを始めるのは、まず、そこからだと思いますので。

以上

(投稿順・感想部分のみ抜粋・編集 by 事務局)